



代表取締役社長 市川 滋乙(重人)

新年のご挨拶

明けましておめでとうございます。

昨年末は、久しぶりに行動制限のないなか、コロナの第八波の不安がありつつも、急激に寒くなり大雪、積雪もあり、かなりの寒暖差や状況の変化の激しい年越しでしたが、まずもって年明け時点にて、会社に勤める皆様やご家族誰しもが健やかに乗り切れたことに安堵しておるとともに、本年もそのような状況が続くことを切に願うばかりです。

そんななかでも年始正月の気候は晴天が続き、比較的暖かな気温となり、我々運送業にとっては、年末にあった積雪をさほ

ど心配することなく、今のところを過ごせております。そんな年末年始の一段落感から来る気の緩みや寒暖差による体調不良には気をつけていただき、晴れとした年始めにしていきたいと思っております。

さて昨年は、コロナ禍の終息を期待していたところ、予想外に、ウクライナでの戦火が始まり、結局コロナ禍も3年を経過してしまいました。弊社の状況としましては、年末の終業式や賞与のコメントでお伝えしたように経済的な挽回をすべきところに前述の戦火の影響による、原料高、物価高が起り、且つさらなる燃料高騰が起り、また想定外の自動車関連の減産による痛みを受け、まだまだ先の見

えない社会情勢が続いております。そして何よりそんなコロナ禍の3年を社会生活や経済を回すというしごとに携わり、物流のプロとして働いてくれている皆様に改めて感謝申し上げます。

年が変わってもコロナやインフルエンザの予防対策は予断は許さず、まだきびしい寒い季節は続きます。健康管理と感染対策においては、気を緩めることなく、『自分のため・周囲のため』を念頭に確りと継続して参りましょう。

これからは本年と未来の話に移りたいと思います。建設2年が経過しコロナショックを補っている『豊明営業所』は、新たな保管や輸送の拡販ができてお

り、さらなる拡充が期待できます。そこにここまでコロナ禍の影響を受けていなかった食品や段ボール等の生活必需品関連も順調に推移し、自動車関連の半導体不足や納期問題の解消や挽回が叶えば、さらにより良くなることを期待していきたいです。

その機会に向けて、会社としては、継続して若手社員・未経験者の採用の強化と同時に働きやすい職場環境の整備と改善を進めていきます。またそのツールにつながるIT化やデジタル化をさらに推し進め、しごこの効率化を目指していきたいと思えます。そこにさらに良い変化、新たな人やモノ(車・営業所・職場環境 etc.)・組織(部門・連携・チーム)・しくみ(方

法やノウハウ≡ITデジタル etc.)が重なれば相乗効果となり、そしてこの3年間のコロナ禍対応の経験が活かされれば、今後も起きうる昨今のような急激な変化や危機にも対応し、さらにより良くなれると確信しております。

おかげさまで私は、今年で社長就任10年目を迎えます。さらに兎(うさぎ)年の年男です。個人的にも社会的にも何か縁起のいいことがありそうな機運です。また干支の「癸卯(みずのと・う)」は「寒気が緩み、萌芽を促す年」との意味で、「コロナ禍以降、停滞し続けていた世の中に、そろそろ希望が芽吹く春がやってくる年」と解釈されているとのこと。そして『卯・兎・

ウサギ』は、『成長』の象徴、『向上』を意味し、『前向き』な『ことば』を連想させます。まさに私、個人も会社もひいては世の中が、兎のように『飛躍』できる年になることを期待させていただきます。

昨年新たに改定した『南星基本方針』にある「前向きな考え」や「向上心」をもとうの意識を植えつける良い機会の年ともなります。その意識が個々で高まれば、個人も成長し、そして皆が成長すれば、会社全体が成長するとの想いでこの方針を掲げています。さらにそれを目標として目指すことが、今年、これからの南星の成長と発展につながるかと信じております。本年も皆様方の変わらぬご支援ご協力を宜しくお願い申し上げます。